

天井等落下防止対策のための手引き（仮称）の作成について

1. 目的

本年 9 月に取りまとめた中間まとめを踏まえ、学校設置者の取組を円滑に推進することができるよう、天井等落下防止対策の考え方や対応方策、具体的な対策の手順等を示した手引きを作成し、幅広く関係者に周知徹底を図る。

なお、本手引きは、先般国土交通省から示された「天井脱落対策に係る技術基準原案」を踏まえたものとする。

2. 手引きを配布する対象

- ・学校設置者（国立大学法人、地方公共団体及び学校法人等）の施設担当者

※学校施設の天井等の点検・対策に関わる実務者も手にする可能性あり。

3. スケジュール

- ・11月初め～3月まで一月に1度のペースでWGを開催し年度末までの作成を目指す
- ・12月、2月、3月の協力者会議にてWGでの進捗状況を報告し協議

4. 手引きの構成（素案）（別紙参照）

- ①天井等落下防止対策の考え方
- ②総点検用マニュアル
- ③天井等の落下防止対策事例
- ④対策優先度を判断するまでの判定調査表
- ⑤震災後の使用可否検討用簡易チェックリスト
- ⑥参考資料

5. 手引き作成に当たっての留意点

- ・できるだけわかりやすく、図や写真などを多用し解説する
- ・点検・対策を進める上で押さえておくべき技術的留意点をしっかりと書き込む
- ・国土交通省が技術基準の内容を補足する技術資料を作成予定。基準そのものの詳細な資料とはせず、学校設置者に確実に伝えるべき内容を厳選し厚くならないようにする

手引きの構成（素案）

第1章

①天井等落下防止対策の考え方

※中間まとめで示した考え方を簡単にまとめ記載する

- ・屋内運動場等の対策を優先する
- ・緊急に天井等の総点検を実施する
- ・対策には「撤去」、「再設置」、「補強」、「落下防止ネット等設置」の4つの手法がある

第2章

②総点検用マニュアル

※天井に係る診断フローチャートの考え方に基づき、総点検等の手法を解説（図・写真等を用いて判断基準を明確化）。

※照明器具、バスケットゴール等のチェックポイントの解説

※関連する構造体の点検の解説（へりあき寸法、水平プレースの保有耐力接合など）

○ 天井総点検から対策の実施までの手法を概ね以下の3つの構成に分け解説

ステップ1	吊り天井の有無、クリアランスの有無（可能な場合は天井内の斜め部材の有無を含む）と特記仕様書を確認し、該当する施設の特定及び吊り天井の危険性の判断を素早く行うための手法を解説。
ステップ2 ～4	ステップ1で該当しなかった施設や、補強対策を主に考える施設を対象に、技術基準原案に沿った詳細な点検や、補強を含めた対策の検討が可能となるよう、図面診断と実地診断の手法を解説。
ステップ5	具体的な事例を元に、「撤去」「補強」「再設置」（「ネット等の設置」）対策を実施した際の留意点等を想定し解説。

③天井等の落下防止対策事例

※現状の天井の状態を「事例」として示し、どの部分に不具合があるかを示すとともに、どのような対策が考えられるかを想定として提案。

※総点検用マニュアルの中の「対策の実施」として示す。

※提案には「撤去」、「再設置」、「補強」（「落下防止ネット設置」）のそれぞれの事例を示し、コスト、安全性、施工性、運営上の支障等から比較検討し留意点等を記述。

※「撤去」における断熱・音響・空調等、各種環境条件への対応方策についても記述

④対策優先度を判断するまでの判定調査表

※天井等の総点検の結果と架構種別や屋根形状などの施設情報を総合し、対策の優先度を判断する資料を検討

※対策の優先度を判断するために必要となる項目を総点検用マニュアルに追加。天井の状態とともに優先度判断の項目も一覧として整理できるようにする。

施設情報の例) 建設年、架構種別、屋根構面の形態、天井面積、天井の形状、本体構造の剛性、吊りボルト支持部の施工状況 等

第3章

⑤震災後の使用可否検討用簡易チェックリスト

※現行の文教施設応急危険度判定制度の改善・充実に資するよう、天井等の落下危険性を判断するための点検項目等について分かりやすく示した資料の検討。

※危険性の高い兆候を確認した場合は施設の使用を控えられるような項目をまとめる。

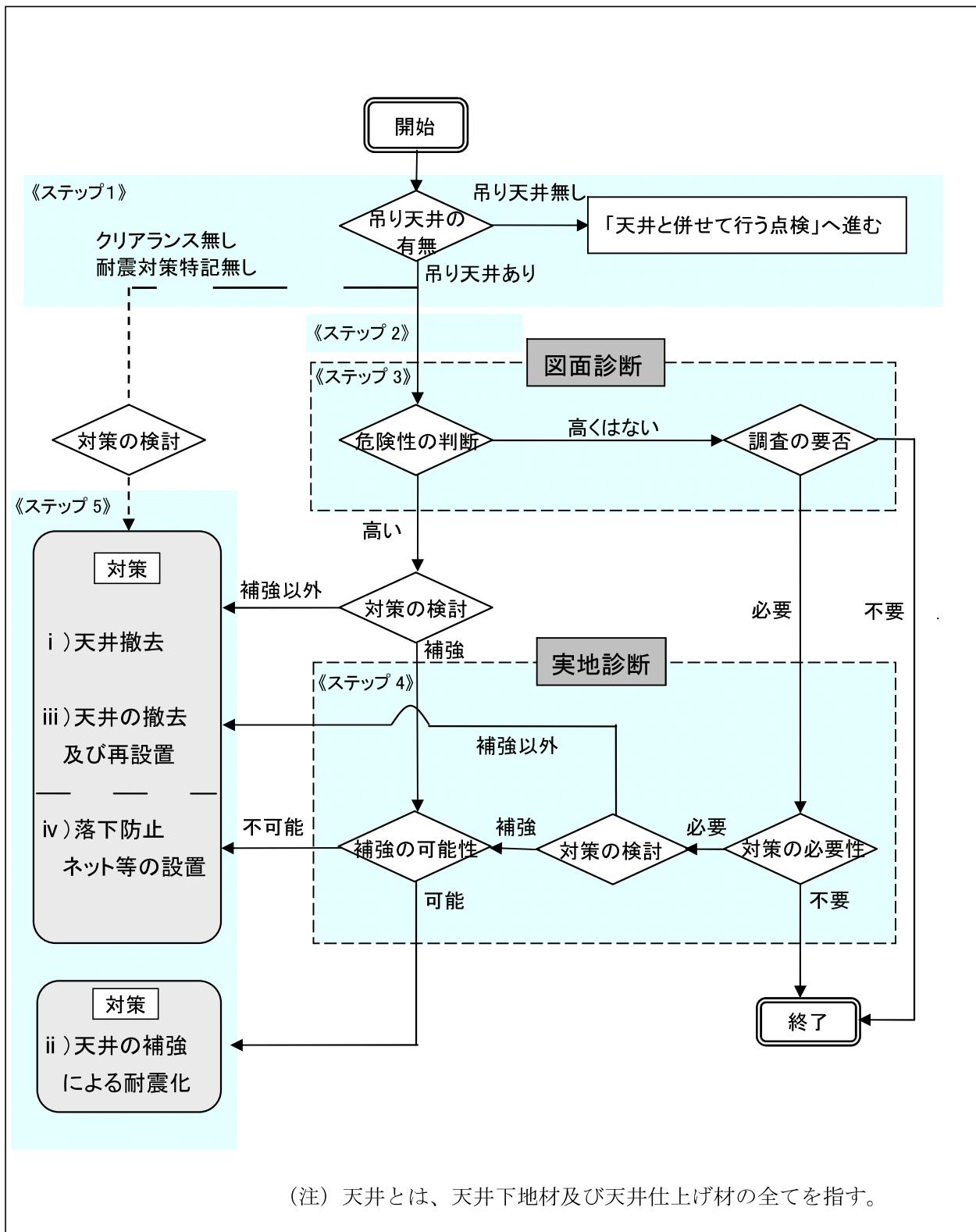
- 例) ・吊り天井の危険性の兆候
- ・コンクリート片落下危険性の兆候
 - ・その他内装材や設備機器の危険性の兆候 等

第4章

⑥参考資料

※国土交通省の技術基準、財政支援制度など

- ・中間まとめのフローチャートをベースに一部加工



(図 1) 屋内運動場等の天井に係る診断フローチャート